

一般社団法人スポーツシンギュラリティー研究所
環太平洋大学スポーツ科学研究所 天野勝弘

美意識の必要性 企業むけ感性ト レーニングの提案

背景

世界のエリートはなぜ美意識を鍛えるのか
経営におけるアートとサイエンス 山口周著

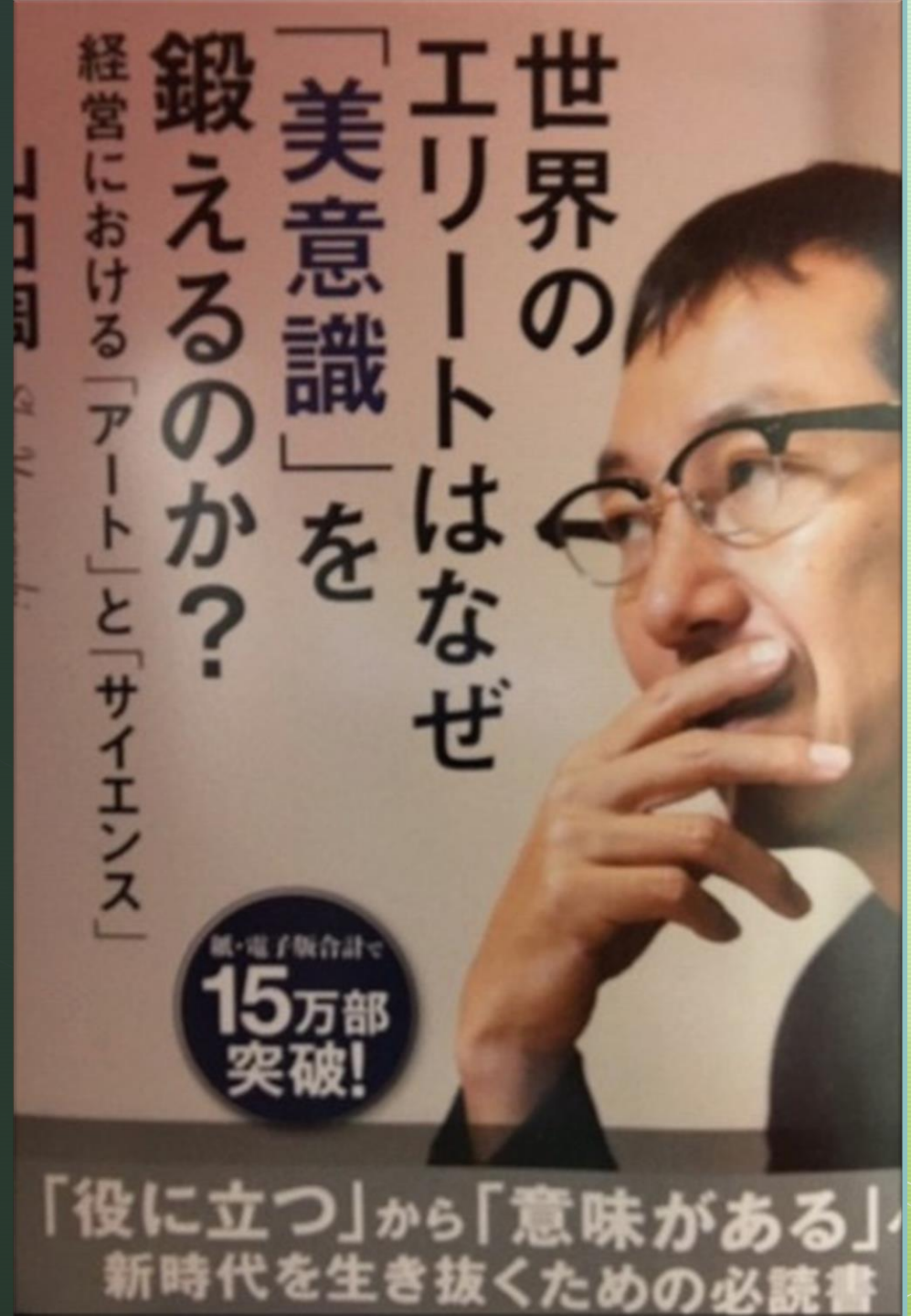
1. 論理的、理論的情報処理スキルの限界が露呈しつつある。”コモディティ化“
2. 世界中の市場が”自己実現消費“へと向かいつつある。企業やリーダーの美意識の水準が問われる
3. システムの変化にルール of 制定が追い付かない状況が発生している。

美意識の必要性・重要性はこれから必ず注目される。

提案

それでは企業やそのリーダーに美意識を鍛えましょう。答えはNO！美術館やコンサートに通いましょうということで解決するのか

美意識：感性を鍛えるプログラムに対するニーズがある。社会を変革できる担い手になれる



解決策として提案されていること

脳科学から

ソマティック・マーカー からだで感じる力 → 運動＝ボディーワーク+認知トレーニング＝ニューロトラッカー

美の物差しをもつこと 審美眼 リーダーの条件

具体策として次のことが提案されている 絵画鑑賞、VTS(ビジュアル シンキング ストラテジィ) 哲学に親しむ 文学を読む 詩を読む → 言うは易し、行うは難し → そこでプログラム化が必要

VTSはとりいれることができる。

一般社団法人スポーツシンギュラリティ研究所のメンバーによる

感性トレーニングプログラムの作成と宣伝活動

- 1. VTS 作品講評会 担当:天野誠(長岡芸術大学教授) 美意識を鍛えるワークショップ(例:月2回) 様々な造形物(絵画、製品、ロゴなど)に対して受講者に講評させる、議論させる、講師の解説を聞く、表現力を養わせる、人との差別化を体得する
- 2. 認知機能トレーニング ニューロトラッカー 担当:天野勝弘(環太平洋大学客員教授) 講義(月1回程度)とアプリによる日々の訓練(1日15分、週2~3日)、人間に認知(思考、感覚、感情)の基盤をなしている注意力を鍛えることができる。美意識トレーニングを高める脳のトレーニングともいえる。集中力、コミュニケーション能力など
- 3. エクソサイズ 月1回程度 ダンスセラピー 担当:渡辺奈々(昭和大学藤が丘病院 スポーツ科学研究所 助教) ボディーワークソマティックマーカを養う
- 4. SEAyoga 担当:永井奈津子(理学療法士、鍼灸師) 頭皮を刺激するSAバンドを開発、また半身駆血という脳バランスを整えるハイブリッドブレイントレーニングをJAXAで宇宙飛行士のトレーニングを研究していた医学博士、山崎氏とともに開発